

却法ニヨリ處分セシカ先般同所附近ニ一ヶ所焼却場ヲ設置セリ之カ燒却能力一日七萬貫ナリ同様ノ

燒却場ヲナホ三ヶ所設置ノ豫定ナリ

二、**尿尿**

東京市民一日ノ尿尿排泄量ハ一人平均一日六合トシ一萬二千石ノ見込ニシテ其ノ中

- (イ) 千二百石ハ市營ニテ營業者ノ汲取困難ナル箇所ニツキ汲取ルモ以テ其ノ排泄量ノ三割三十分
- (ロ) 五千石ハ比較的大規模ノ汲取營業者ト家主トノ契約ニヨリ汲取ルモノ
- (ハ) 二千石ハ使用人十人以下ノ小規模ノ汲取營業者ト家主トノ契約ニ依リ汲取ルモノ
- (ニ) 三千石ハ農家直接汲取ルモノ
- (ホ) 八百石ハ淨化裝置又ハ下水直結ノモノ

三、汚物掃除法改正希望意見

- (一) 現行法ニテハ掃除監視吏員ノ組織權限第一條ニ掃除監視吏員ノ名稱規定セラレアルモ之ハ特殊扱ノ感アリテ好マシカラサルヲ以テ他ノ一般ノ市吏員同様ニ取扱ハレタシ
- (二) 施行規則第二十一條ノ改正ニ就テハ警視廳衛生課長ト同一意見
- (三) 官公署ノ汚物處分ニハ現行法ノ適用ナキモ之ハ市ノ義務ニ屬セシメ處分ニ要スル實費相當ノ使用料又ハ手数料ヲ課シタシ
- (四) 施行規則第三條中ノ塵芥溜ノ規定ニ關スル件ニ就テモ警視廳衛生課長ト同一意見

(五) 施行規則第二十二條「尿尿ニハ當分ノ内第五條ノ規定ヲ適用セヌ云々」トアルヲ原則トシテ

第五條ヲ適用スルヤウニ即チ尿尿ノ處分ハ市ノ義務ニ移サレタシ、但シ地方長官ニ於テ必要ト認メタルトキハ掃除義務者ニ於テ之ヲ處分スルコトヲ得ルヤウニセラレタシ云々

隣接町村ノ部

一、東京市内ノ塵芥ハ自然燒却及月島塵芥燒却場ニテ處分スルモ隣接町村ニ在リテハ塵芥ハ從來大部分埋立テニ用ヒ燒却場アル町村ハ汚物處分法準用町村三十二中六ニスキス即チ八王子市、澁谷町、大崎町、日暮里町ハ町營ニシテ荏原町大井町ノ分ハ個人經營ナリサレト隣接地方ニ在リテモ埋立ニ充ツヘキ地域漸次減少シツツアルヲ以テ燒却施設設置ノ機運ヲ馴致シ現ニ之カ出願中ノモノ七ヶ所アリ

二、隣接町村ニ於ケル尿尿處分ハ町村營フモノニテケ所モナク汲取人ト家主トノ個人契約ニ由ル之ニ關シ町村ニテ多少仲介ノ勞ヲ取ルトコロハアツクニシタシ

三、汚物掃除法中改正希望意見

- (一) 汚物處分ニハ相當經費ヲ要スルヲ以テ之カ處分ヲ實施スル市町村ニ於テ市町村税ノ例ニ徴シ汚物處分ニ關シ使用料又ハ手数料ヲ徴收シ得ルヤウニシタシ
- (二) 燒却施設ノ設置ニ對シ國費ノ助成アリタシ

- (三) 市街地建築物法施行令第一條及第二條ニあり、工業地域ニアラサレハ焼却場ヲ設置シ得サルヤウ規定セラレアルタメ現行法ノ下ニテハ工業地域ニアラサル町村内ニ焼却場ヲ設置スル場合ニハ工業地域ニ其ノ地區ノ變更手續ヲナシツツアリ而シテ多クノ隣接町村ハ工業地域ニアラス爲ニ不便尠カラサルヲ以テ地域ノ如何ヲ問ハス焼却場ヲ設ケ得ルヤウニシタシ
- (四) 焼却爐ノ完全ナルモノヲ二、三種公表セラレタシ
- (五) 汚物掃除法施行規則第二十一條「地方長官ハ郡村ニ接近シタル地區ノ義務者又ハ廣大ナル土地ヲ有占スル義務者ノ掃除シタル汚物ノ處分ニ關シ第三條及第五條ニ拘ハラズ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得」トアリ此ノ義務者中ニビルデング、デパートメントノ如キ廣大ナル建物ノ所有者又ハ占有者モ包含セシメラレタシ
- (六) 汚物掃除法施行規則第二條中ニ「土地ニ定着シタル塵芥溜ハ之ヲ設置スルコトヲ得ストアラモ今日ハ定着シタルモノニテモ適當ト認メラルル塵芥溜アルヲ以テ塵芥溜ノ規定ハ地方長官ニ一任セラレタシ

以上

第十四回

昭和四年四月十七日午前十時内務省會議室ニ

委員長 柳澤伯爵

栗本、矢作、横手各委員

伊藤幹事、氏原、南崎、野邊地各内務技師

參集、ソレヨリ一同順次左記箇所ヲ視察シ午後五時散會

記

東京市淺草區本願寺脇屎尿投入場

三河島下水處分場

王子町塵芥燒却場

芝浦下水處分場

目黒町塵芥燒却場

第十五回

昭和四年五月三十日午後二時ヨリ省内審査委員室ニテ開會

出席者 柳澤委員長

栗本、北島、横手、西崎各委員

山田衛生局長、伊藤幹事、氏原、南崎各技師

議事大要

柳澤委員長 開會ヲ宣ス

栗本委員 前回マテノ大體ノ經過ヲ述フレハ、汚物掃除法施行規則第二十二條ニ依リ尿尿ハ當分ノ内私人ニ處分セシメツアルモ是非之ヲ廢止シ當然市ノ義務タラシムル様改正ノ要アリ、而シテ市ニ其ノ處分ヲ命スルトセハ補助金ノ交附ヲ可トスルモ衛生局長ハ補助金ヲ交附スルコトトセハ財政ノ關係上改正容易ナラサルヘキヲ以テ單純ニ同規則第二十二條ヲ改正シタシト云フニ在リキ

本委員モ此ノ方針ニテ改正ヲ望ム

北島委員 市ニ於テ處分スルコトニ改正ノ要アリ

衛生局長 大阪市保健部長ノ談ニ依レハ同市ニ於テハ現在ノ營業者ノ關係上直チニ市ニ於テ實施出來スト云フ相當ノ過渡ノ年限ヲ置クノ要アラン

栗本委員 東京ニテハ現在ノ營業者ヲ使用セハ差支ハナカラシ

衛生局長 大阪市保健部長ヲ招キ意見ヲ聞キテハ如何

保健課長 尿尿ノ所有權ヲ奪フ程度ノ積極的規定ナキヲ以テ市營トセハ私人ハヤレヌ様規定セラレタシトノ地方ノ希望アリ

委員長 現在汲取人ヨリ金ヲ出シテ汲ミ取ル處アリヤ

保健課長 大都市ニハナシ

氏原技師 委員ノ大體ノ意見トシテハ汚物掃除法ノ改正ヲ必要トスト云フニ一致スルカ如シ

栗本委員 汚物掃除法施行規則第二十二條ノ但書ハ逆ニ付ケルコトニシタシ、市カ行フコトヲ原則トシテ

北島委員 塵芥焼却場ノ設置ヲ内務大臣ヨリ命令スルコトヲ得サルヤ

衛生局長 設置ヲ命スルトセハ一方補助ノ要アリ、補助規定ハ容易ニ通過セヌ懸念アリ

栗本委員 「命スルコトヲ得」タケニテハ如何

衛生局長 ソレタケナラハ差支ヘナカラシ

栗本委員 尿尿問題ニ集中シ少ナクトモ之タケハ解決シタシ

衛生局長 尿尿ノ汲取ニ付手数料ヲ徴收スルコトニスルモ一方法ナラン

保健課長 塵芥ノ方モ一面補助ヲ貰ヒ一方手数料ヲ徴收スルコトヲ得ルヨウ規定ノ改正ヲ望ミツツアル市モアリ

衛生局長 「手数料ヲ徴收スルコトヲ得」トシテ金ヲ取レル様ニシテ自治團體ニ施行セシムル方法最モ可ナラン

時々會ヲ開キ案ノ内容ニ就テモ御相談シナカラ進メルコトシタシ

北島委員 下水道ノ補助率ハ如何

衛生局長 四分ノ一ナリ

北島委員 水槽便所取締規定アリヤ

氏原技師 應府縣令アルモ統一的规定ナシ

北島委員 統一スル必要ナキヤ

柳澤委員長 今後定例ノ會合ハ無理ナルヘキヲ以テ來月一回位開會スルコトトセン。其ノ期日ハ六月

十三日ヨリ十八日マテノ間ニ手配アリタシ、尙其ノ時大阪市保健部長ヲ招クヤウニシ且汚物掃除處

分ニ關スル當局案ヲ示サレタシ

終リニ中小都市ノ尿尿處分ニ關シ衛生局長ヨリ南崎技師ヲシテ尿尿溜ノ計劃案ニツキ説明セシム

其ノ要旨

人口一萬ノ都市ニ尿尿溜ヲ三箇所築造スルコトトシ一箇所ノ總經費二二、八九六圓、溜ハ深サ二間、長サ十四間七五三箇所全體ノ經費十二、三萬圓、各戸ノ便所ヲ改正スルトシテ約二十萬圓ヲ要ス
午後三時三十分散會

第十六回

昭和四年六月二十七日午後二時ヨリ内務省法令審査委員室ニテ開會

出席者 委員長 柳澤伯爵

栗本、北島、西崎、横手各委員

山田衛生局長、伊藤幹事

高野豫防課長、氏原、南崎、野邊地、内藤各技師

大阪市保健部長安達將總氏ヨリ左記大阪市尿尿處理問題ニヨリ同市ニ於ケル汚物處理ノ現況ニツキ
聽取シ尙次回ニハ幹事ノ手許ニテ汚物處理ニ關スル衛生法規ノ改正案ヲ立テ附議スルコトニ決シ午後
三時五十分散會

大阪市尿尿處理問題

概 説

近時都市ニ於ケル尿尿處理ニ關シ保健衛生上ノ重大問題トシテ提唱サルルニ至レルハ寔ニ喜ブヘキ
現象ナリ

本市ノ尿尿處分市營ニ就テハ收益事業トシテ明治二十二年及明治四十五年ノ兩度市會ニ提議サレタルモ何レモ時期尙早トシテ實現ヲ見サリキ爾來之カ調査研究ヲ續ケタル結果大正七年尿尿處分市營調査委員會ハ本市ノ尿尿處理ハ暗渠放流式其他進步セル方法ニ據ルヲ市是トスルコトニ談合セリ

大正八、九等ノ候ヨリ尿尿停滯ノ傾向甚シキヲ以テ大正十年以來之カ對策トシテ應急的有料汲取ヲ施行シ生肥不需用期ニ於ケル調節、農家汲取ノ推奨、汲取業者ノ牽制等ニ努メ現下ニ於テハ幸ニ平調ヲ保テル状態ナリ

而シテ將來ニ於ケル尿尿ノ處理ハ雨水ノ一部及汚水ト共ニ下水處理ニ依ルヘク昭和三年五月都市計畫トシテ其ノ大綱ヲ樹立シ既ニ實施方法ニ付銳意調査中ニ屬セリ以下項ヲ分ケテ記述スヘシ(各項ノ記事ハ省略)

- 一、大阪市ノ尿尿處理沿革
- 二、大版市尿尿排泄量
- 三、尿尿ノ汲取處分現況
- 四、汲取後ノ終末處分
- 五、現行市營應急汲取ノ梗概

- 六、尿尿處理工場
- 七、全市汲取ノ市營
- 八、市財政ノ現況
- 九、下水道事業ノ沿革並ニ現況
- 一〇、市岡下水處理場
- 一一、將來ノ下水道改良事業並ニ下水處理計畫
- 一二、六大都市ノ市營汲取梗概(昭和三年度)
- 一三、尿尿ト金肥トノ比較
- 一四、枝川導水

結語

市營汲取ハ其ノ終末處分ヲ保健的處理ニ依ルヲ以テ主タル目的トスヘキナリ然ルニ現在之ニ對スル何等ノ設備ヲ有セスシテ施行スルハ全ク無意味ト謂フヘシ

或ル論者ハ大貯溜槽ヲ設置シ相當期間貯溜シ滅菌ヲ俟テ肥料ニ供スルコトヲ提唱スルモ雖モ斯ハ所謂机上論ニシテ實施ニ當リテハ當該敷地ヲ得ルニ困難ナルヘク又不需用期ニ備フル爲メノ巨大ナル

貯溜槽ヲ設置スルハ到底至難ナリト信スルモノナリ
又或ル論者ハ不需用期ニ於ケル海中投棄處分ヲ稱フルモ是亦大阪灣ノ如キ内海ニテハ衛生上將ク亦
風紀上考究スヘキ多分ノ問題ヲ存スルモノナリ

而カモ本市ハ下水處理完成ニ至ル迄ノ中間策トシテ大正十年ヨリ應急汲取ヲ施行シ農家及業者ノ間
ニ介在シテ汲取調節ヲ圖リ現在大體ニ於テ汲取處置ハ圓滑ニアル状態ナリ

今強ヒテ全市ニ對シ市營ヲ施行セムカ徒ラニ汲取業者ノ職ヲ奪ヒ多額ノ市費ヲ消費シテ市民ノ負擔
ヲ増スノミニシテ益スル處ハ皆無ナリト謂フモ敢テ過言ニアラサルヘシ

汲取業者約三〇〇人カ平均年八〇〇圓ノ所得アリトスレハ總額二四萬圓ナルカ市營實施ニ際シテハ
市ニ於テ其ノ幾部分ヲ年々補償スルカ又ハ相當額ヲ一時ニ支給スルノ要アルヘシ、而カモ本問題ニ關

シテハ曩年苦キ經驗ヲ有シ急速ニハ協商纏ラサルヘキヲ豫想セラレ
次ニ市民ノ負擔ヨリ觀察スルニ一箇月一戸ノ屎尿汲取料支拂ハ月二回汲取ニテ三〇錢前後ヨリ五〇

錢、六〇錢ニ及ヒ特種業者家屋ハ壹圓以上ニシテ三〇錢ヲ支拂フ戸數最モ多シ昭和元年本市調査ニ依
レハ一月平均五〇錢ニシテ一人一箇年一圓二〇錢ノ割合ナリ

故ニ全人口ニ對スル額ハ年二八〇萬圓ト推定セラレヘシ
サテ市營ヲ施行スルトキハ

經常費 約二八二萬圓

創設費償還 約一〇萬圓

計 二九二萬圓

ヲ要シ人口一人當リ年額約一圓二五錢、石當リ約六〇錢一戸當リ年額六圓二五錢ナリ

以上ヲ比較スルニ市營施行ノ曉ハ市民負擔ハ一人當リ五錢ノ増加ヲ示ス其ハ主トシテ創設費償還ヲ

要スヘキヲ以テナリ而カモ市財政ノ現状ニ於テハ汲取料及賣却代ノ收入ヲ差引キタル經常費ノ缺損八

二萬圓ト償還財源一〇萬圓ト計九二萬圓ノ支出ハ全ク不能ナル状態ナリ、翻ツテ下水處理計劃ノ進涉

状態ハ既ニ昨三年之カ計劃範圍ヲ定メ明五年度ニハ五箇年繼續ニテ約一千萬圓ヲ以テ近キ將來屎尿處

分ニ困難ヲ來スト認ムヘキ地域即チ主トシテ舊市ノ中心部ニ對シ下水處理ヲ施行スヘク目下著々調査

中ニ付將來下水管渠ト各戸水洗便所ト連結ノ上ハ從來ノ桶杓式汲取市營ハ全ク其價值ヲ失フモノナリ

而シテ下水處理實施後ニ於ケル市民ノ負擔ハ現在ノ市岡下水處理場ニ就キテ見ルニ一人當リ七七錢

ナルヲ以テ一圓二〇錢ニ比シ四三錢ノ節約ニシテ現在人口二、三三三、八〇〇人ニ對シテハ節約總額壹

百萬圓以上ニ上ルヘシ

第十七回

昭和四年十一月十三日午後二時ヨリ内務省會議室ニテ開會

出席者 栗本、矢作、北島各委員、伊藤幹事

赤木衛生局長、高野豫防課長

氏原、南崎、野邊地各技師

議事

前回ノ決議ニ基キ幹事ノ立案ニカカル汚物掃除法、同法施行規則、下水道法ニ關スル改正案ニツキ
審議シ午後四時散會

第十八回

昭和四年十二月十七日午後一時五十分ヨリ内務省會議室ニテ開會

出席者 委員長柳澤伯爵

西崎、栗本、横手、北島各委員、伊藤幹事

赤木衛生局長、高野豫防課長

氏原、南崎、野邊地各技師

議事

汚物掃除法外ニ法規ノ改正ニツキ前回ニ引續キ審議ノ結果成案ヲ得タルヲ以テ右ニツキ委員長ヨリ
會長ニ答申ノ手續ヲ採ルコトニ決シ尙都市衛生状態ノ改善ニツキ汚物處理ニ關スル法規ノ審議ハ一段
落ヲ告ケタルモ他ノ改善事項ニツキ引續キ調査ヲ進ムルコトニ申合セ午後二時四十分散會

一、衛生思想普及ニ關スル特別委員會(小委員會)

昭和四年五月十六日(木曜日)午後二時十五分内務省會議室ニテ開會

出席者 三宅委員長

横手、永井、佐伯、山田各委員

伊藤幹事、氏原、南崎兩技師

議事ノ經過

衛生讀本ノ編纂促進方ニツキ協議ノ結果永井委員ヨリ同委員ノ擔任ナル「生命と自然界」ニ就テハ
既ニ三分ノ二ホト執筆済ニツキ殘部ヲ本年五月中ニ終了スヘキ旨ヲ述べ又佐伯委員ヨリ同委員ノ擔當
ニ係ル「榮養ト嗜好」ハ大體脱稿セルヲ以テ來ル六月中旬迄ニ推稿ヲ了ルヘキ旨ヲ述ヘ異議ナク承認
午後三時散會

(XXXXXXXXXX)